

JAXA の河内山理事が資料 1-1 (LNG) を 5 分程で説明した後、4 分程の質疑応答があった。(LNG エンジン 2 方式のうちの一つ、ブーストポンプ・アブレータ方式で、燃焼圧力変動の無い、設計変更の意図通りの実験結果が出た。民間と連携し、GX ロケット開発の進め方を整理し、新たに JAXA の実施する開発内容についても審査いただく。)(来週 15 日に推進部会が開催される予定で、其の為か説明も質疑も概括的な範囲で行われた。青江委員は、民間と JAXA の役割分担の変更について、盛んに質問していたが、狙っている方向が分かる発言ではなかった。)

青江:一寸細かい事で、ひょっとしたら余り本質的で無いのか、それとも本質的な事か解らない¹が、第 1 頁に、「官民連携の下で開発される」と云う文字が、GX ロケットに掛っているのか、第 2 段に掛つとるのか。GX ロケットの方に掛って居るのであれば、用語の使い方としては間違いなのかも知れませんね。「民主導で、官が支援をする」と云うのを、官民連携?

JAXA 河内山:其れを「官民連携」と云う言葉で表しているんだと

¹ 本質的だと思っているのでしょうか。但し、その触れ方が難しく、選ぶべき言葉が見つからないのだろう。民間主導だからスタートさせたが、官主導でも継続する理屈付けに苦しむと思っているらしい。JAXA は大分前から、「基幹ロケットの継続性を守りつつ、挑戦的な技術開発を行なうには、小さめのテストベッドが有る事が好ましい。」と云う主旨の発言を行なってきた。その様な展開に努めるのが唯一の解ではなからうか。

云う、

青江:と云う事ですか。

JAXA 河内山:官民共同とか連帯とか、そう云うんでなくて、連携と云う処はそう云う意味が含まれているから、こう云う言葉になってるって事で、其れも色々議論が御座いまして、色々調べたんですが、此の表現が一番適切でないかと云う具合に考えて御座います。

青江:適切であるかどうかと云うのは議論の有るところ²だと思いますけどね、はい、此れが第一点。第 2 点が一番最後の頁ですね。「民間から JAXA の役割がより拡大する」こと、求められておると。此れは今一つの例を挙げられましたが、もう少し敷衍して説明をして頂けますか。

JAXA 河内山:役割の拡大と言うことで御座いますが、

青江:JAXA の役割の拡大。

JAXA 河内山:はい、民間が運用機の製造と打上げ、要するに事業責任を持つと云う処については変りは御座いませんが、此れまで民主導で行なって来ましたシステム設計、一段ロケットにつきましては実証実験機の開発フェーズにおいて、此れまでの民間の技術成果を活用しつつ JAXA が開発の主体となって進めるようにと云う事が求められているって云うのが具体的な内容です。

(暫く無言)

² 議論の仕方として、その様な進み方になるかも知れないが、国の事業として中型ロケットに取り組む目的を明確にすることが大切なのであろう。

松尾: 宜しいですか。

青江: はい。

松尾: では、この様にお申し出を受けましたので、宇宙開発委員会としてはこの件の評価を、今後進めて参りたいと思います。此れ、元々一昨年の終わり頃に評価小委員会で評価を致しました折、一年半を目途にその後の進捗を再評価したいと云う事になって居りましたが、まあ其れを厳密に一年半をやりますと3月になる訳ですが、其れを前倒しと云った様な形で此れを評価させて頂きたいという風に思っております。で、まあ、若干スコープの違うところも有るかも知れませんが、この審議体制についても改めて検討して進めて参りたいと云う風に思っております。この件宜しゅうございますか。で、その場で当然出てくる話だと思いますけども、まあ、今日、簡単に再生冷却とアブレータのご説明ありましたけれども、両方の進捗状況について、特に再生冷却側について、余り触れられることが少ないものから、そこら辺でどう云う進展があったと云うのを、当然その中で、もっと詳しく何うような話になろうかと思っております。宜しく願いいたします。

JAXA 河内山: はい、再評価の中で報告したいと考えて居ります。

青江: 当然評価の冒頭に於きましてだと思えますけれども、先程の要望、そう云うものがどう云うものであるのか、その辺キチンとお聞きしないといかんと云う事だと思っております。

JAXA 河内山: はい。

松尾: 宜しゅうございますね。はい、どうも有難う御座いました。